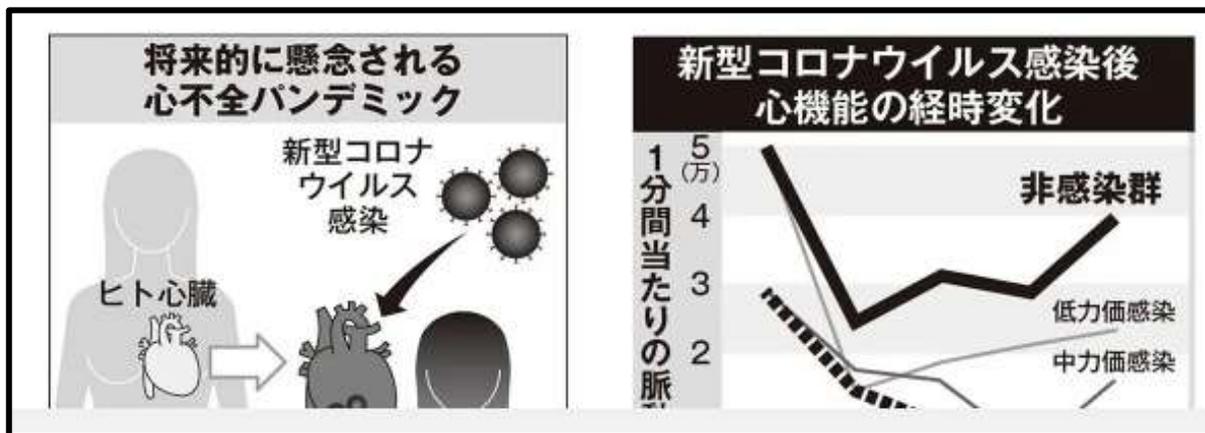


## 理研・京大の研究チームが発表—コロナ既感染 累計4千万人全員に心不全のリスク

1/18 女性自身

新型コロナウイルスの変異株 JN.1 による感染急増が懸念されるなか、新型コロナの感染で心不全リスクが高まる可能性を示唆した論文が、昨年12月23日（日本時間）に科学雑誌『iScience』オンライン版に掲載された。



研究チームの理化学研究所上級研究員で医師の升本英利さんが、解説する。

「新型コロナは、多くの方が肺炎を引き起こす病気として捉えていると思いますが、実はほかの臓器にも影響があると考えられています。」

なかでも心臓には、新型コロナウイルスの表面にある突起にくっつきやすい、ACE2 というタンパク質が多く存在しているのです」

そこで研究チームは、iPS細胞でヒトの心臓に近いものを作り、実験を行った。

「新型コロナに感染し、回り回ってウイルスが心臓に到達した場合、心臓にも感染し細胞に入り込み、ダメージを与える可能性があることがわかりました」

強い感染（高力価感染）を起こした場合、感染からの日数を追うごとに心臓の機能が落ちていった。一方、軽い感染（低力価感染）や中程度の感染（中力価感染）などの場合は、一時的に心臓の機能が落ちたものの、その後、心臓の機能は回復したという。

「ところが心臓には増殖可能なコロナウイルスが残ったのです。表面上は元気な心臓ですが、じつはウイルスが潜んでいる持続感染という状態だったのです」

こうして持続感染した心臓を低酸素状態にした実験も行ったところ、心臓の細かい血管にダメージを与える結果も得られたという。

「この実験で、新型コロナが心臓に持続感染した人が動脈硬化を原因とする狭心症や心筋梗塞を起こした場合、通常では助かるようなレベルの症状であっても、リカバリーできないほど重症化してしまいかねないということがわかりました」

### ■ リスクがあることに留意することが重要

健康に見える心臓でも、将来的に強いストレスがかかった場合、心不全を起こすなど、心臓病が重症化する可能性があるのだ。

「もちろん“新型コロナ感染＝心臓に持続感染”というわけではありませんが、心臓に持続感染する可能性が仮に1%の確率としても、その数は少なくありません」

新型コロナは、今後も流行を繰り返すと予想される。日本ではすでに4千万人以上が感染していると思われ、そのすべてがリスク対象者となるはずだ。

「日常生活のなかで、過度に恐れる必要はありませんが、心臓にリスクがあることに留意することは重要だと考えます。

新型コロナに感染したらこじらせないようにする、感染歴がある人で、足がむくんだり息切れするなど心不全の初期症状があれば医療機関を受診するなど、心がけましょう」  
新型コロナウイルスを甘く見てはいけないのだ。

「女性自身」2024年1月30日号